ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E132J003	美術科授業研究（中等） I (Studies in Teaching of Art I (Junior High School))		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫	前期	月4	日本語		単独

担当教員	氏名　藤井　康子 E-mail　fujii-yasuko@oita-u.ac.jp　内線　7595
授業の概要	我が国における美術教育の歴史を踏まえ、現行学習指導要領に基づく美術科の教育理念、教科の目標及び内容、指導方法や評価についての理解を深める。授業実践に役立つ発展的な技法・材料を取り上げ、参考作品の制作を行い、美術科の授業構成と評価の在り方等を検討して学習指導計画を作成する。実技演習を通して指導のために必要となる知識・技能を習得する。

具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	日本の美術教育思想の特徴を説明できる。			○				○	
目標2	発展的な技法・材料を用いた授業プランを構想し、学習指導案を作成できる。		○		○				
目標3									
目標4									
目標5									
目標6									
目標7									
目標8									
目標9									
目標10									
		各DPへの関連度（計10）	2	3	4			1	

授業の内容

1	日本の美術教育史
2	日本の美術教育思想と学習指導要領の変遷
3	海外の美術教育と美術教育動向
4	美術科の「表現と鑑賞の一体化」と「他教科等横断」を図る授業の構想
5	絵画領域の教材開発１：岩石等を用いたピグメント作り
6	絵画領域の教材開発２：テンペラ画①（地塗り）
7	絵画領域の教材開発３：テンペラ画②（下絵の制作）
8	絵画領域の教材開発４：テンペラ画③（下塗り、着彩）
9	絵画領域の教材開発５：テンペラ画④（着彩、ディテールの描写）
10	顔料の科学（他教科とのつながり）
11	工芸領域の教材開発１：木製パズル①（対称な図形を用いたデザインの考案）
12	工芸領域の教材開発２：木製パズル②（デザインの練り上げ、糸鋸を用いた制作）
13	工芸領域の教材開発３：木製パズル③（糸鋸を用いた制作）
14	工芸領域の教材開発４：木製パズル③（仕上げ、塗装）
15	「表現と鑑賞の一体化」と「他教科等横断」を図る学習指導計画の作成

アクティブラーニング			工夫
A:知識の定着・確認		演習では、学生が教材研究の進捗状況について毎回発表を行い、学生同士で相互に意見交流をしたり改善案を指摘する時間を設ける。	その他の工夫
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	教材開発に必要な用具・材料に関する知識について、資料や文献等を読み事前に学んでおくこと。（20h）
	事後学修	用具・材料について関心を持った事柄を各自でさらに調べ、理解できないところがあれば教員に質問し、自らの具体的な指導観の構築につなげること。（25h）
	想定時間合計	45

教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 美術】』、令和2年3月、ISBN 978-4491041377。 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　高等学校　芸術（美術）』、令和3年8月、ISBN 978-4491047072。 この他、必要に応じて書籍等を紹介する。

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	作品課題	60%		○								
	学習指導計画の作成	40%	○	○								

注意事項	教材開発に必要な用具・材料は、各自で準備すること。
備考	※この科目は『地域創生教育科目』です。
リンク	
	URL